

元シリア大使が語る

「報道されない中東の本当の姿」

●講演：国枝昌樹（元在シリア特命全権大使）

●司会：成田秀夫（現代文科講師）

私たちが普段、目にし耳にする報道や情報は本当の姿でしょうか。

そうとも言えますし、そうでないとも言えます。

限られた条件の中で伝えられる内容は、

必ずしも真実そのものではなく、もしかしたら大きく乖離したモノとなっているかもしれません。

今回、情勢が大きく動いている中東のシリアで

日本大使を務められた国枝さんに講演をお願いしました。



撮影：GIGAZINE

●プロフィール

国枝 昌樹（くにえだ まさき）

1946年 神奈川県生まれ

1970年 一橋大学経済学部卒業後、外務省入省

1978年 在エジプト日本国大使館一等書記官

1989年 在イラク日本国大使館参事官

1990年 8月2日にイラク軍がクウェートを軍事占領して始まった湾岸危機では、10人前後の治安軍兵士にカラシニコフ小銃を突きつけられる中で、在イラク大使館公使参事官として日本人約240人の人質解放交渉にあたる。

1991年 在ヨルダン日本国大使館参事官、ジュネーブ軍縮会議日本政府代表部公使

1997年 在ベトナム・ホーチミン市総領事

2006年 在シリア特命全権大使に就任、2010年退官

そのほか、在ベルギー大使館公使、在カメルーン大使などを歴任

著書

『イスラム国の正体』（朝日新書）

『報道されない中東の真実』（朝日新聞出版）

『シリア アサド政権の40年史』（平凡社新書）

『地方分権ひとつの形』（大蔵省印刷局）

『湾岸危機—外交官の現場報告』（朝日新聞社）

国枝さんは、ご経歴からも見られるように中東をはじめ多くの国で外交官を歴任されてきました。

このエンリッチ講座では、現地でご活躍された国枝さんに中東の「本当の姿」をお話いただきます。

アラブの現実を自分の目で耳で確認しにいらしてください。

◆ アラブ世界と民主主義 ◆

2003年、ブッシュ米大統領が「イラクに民主主義を打ち立てる」と宣言して、サダム・フセイン政権打倒のために派兵を決め、多国籍軍を率いて実行しました。しかし、その「理想」は見事に打ち砕かれて、現在の「イスラム国」の出現を許す「危機」に至りました。

アラブ世界の問題の本質は、白か黒かの二元論では理解できません。二元論で解決策を求めようとするのは危険です。

アラブ世界の現実と正面から向き合い、解決の糸口を模索することしかありません。そうでなければ、いつまでもたっても「テロの恐怖」

に怯えながら国際社会を営まなければならないでしょう。

（『イスラム国の正体』より）

6月6日(土) 14:00~15:30

新宿校 701教室

入場無料
申込不要

〒160-0023 新宿区西新宿 7-12-1

☎0120-198-520

●JR・小田急線・京王線・東京メトロ丸ノ内線・都営新宿線／新宿駅西口より徒歩3分

●都営大江戸線／新宿西口駅D4出口より徒歩1分

●西武新宿線／西武新宿駅南口より徒歩3分

